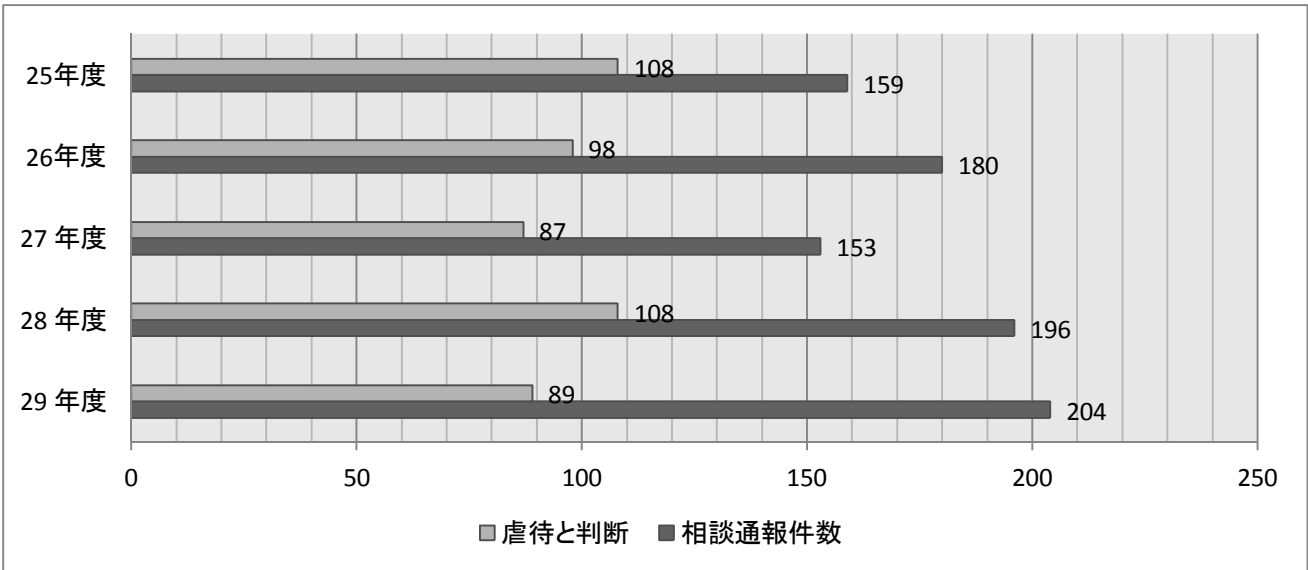


平成25～平成29年度 在宅の高齢者虐待に関する新潟市の状況 (H30.3.31現在)

①相談・通報件数 ②事実確認の結果

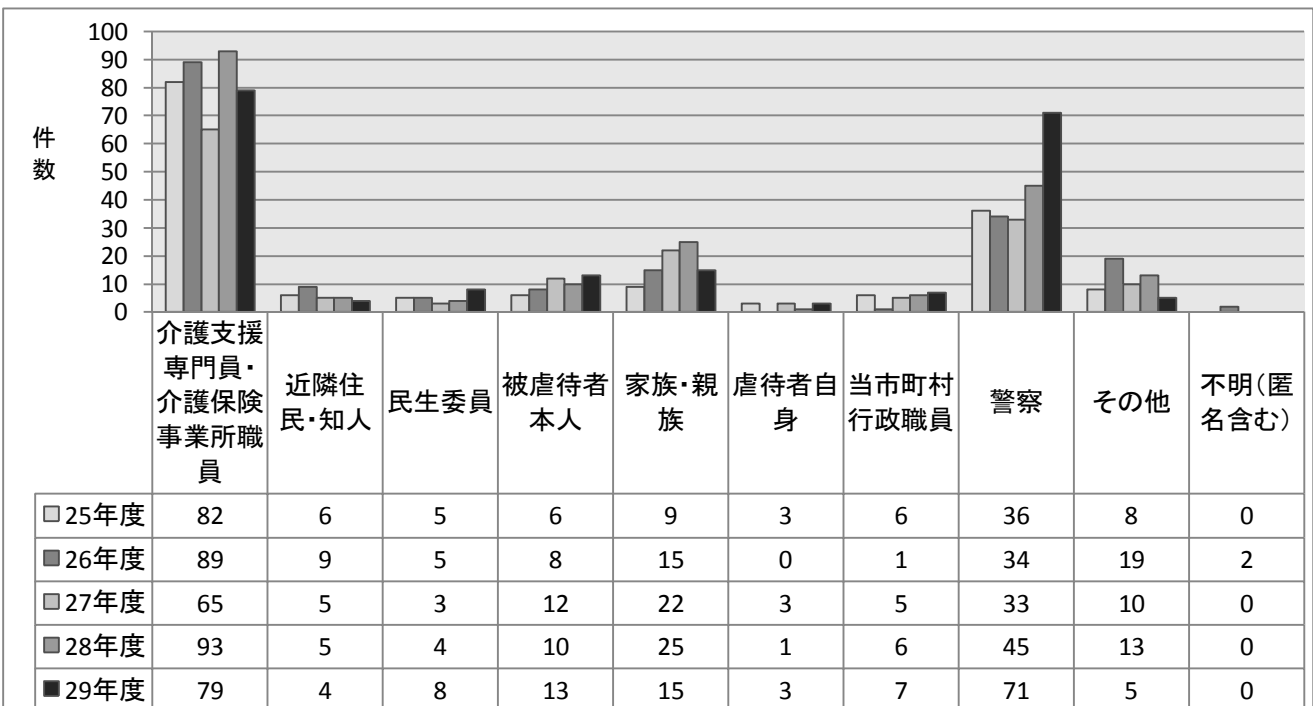


	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
虐待と判断	108	98	87	108	89
相談通報件数	159	180	153	196	204

・相談通報件数は前年度より8件増加した。事実確認の結果、虐待と判断された事例は89件、前年度より19件減少した。今後調査を予定または検討中のものが8件。虐待の判断に至らなかった事例についても、今後虐待につながる可能性があるとして判断した場合には、関係者で連携し予防的対応をしている。

③虐待の相談・通報者(複数回答)

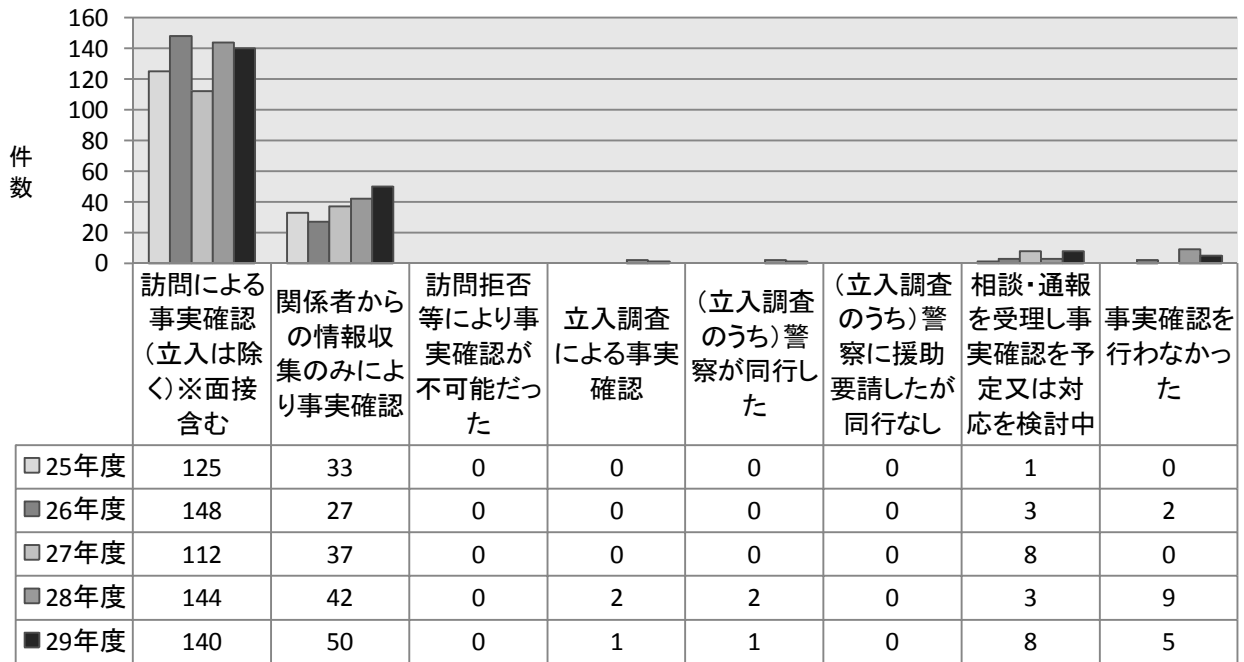
29年度 n=205



介護支援専門員等の介護関係者の相談数が38.5%と最も多く、次いで警察からの相談が34.6%、家族・親族の相談が7.3%
その他・・・病院、県女性相談所、地域包括支援センター、障がい者基幹相談支援センター、成年後見人

④事実確認の状況

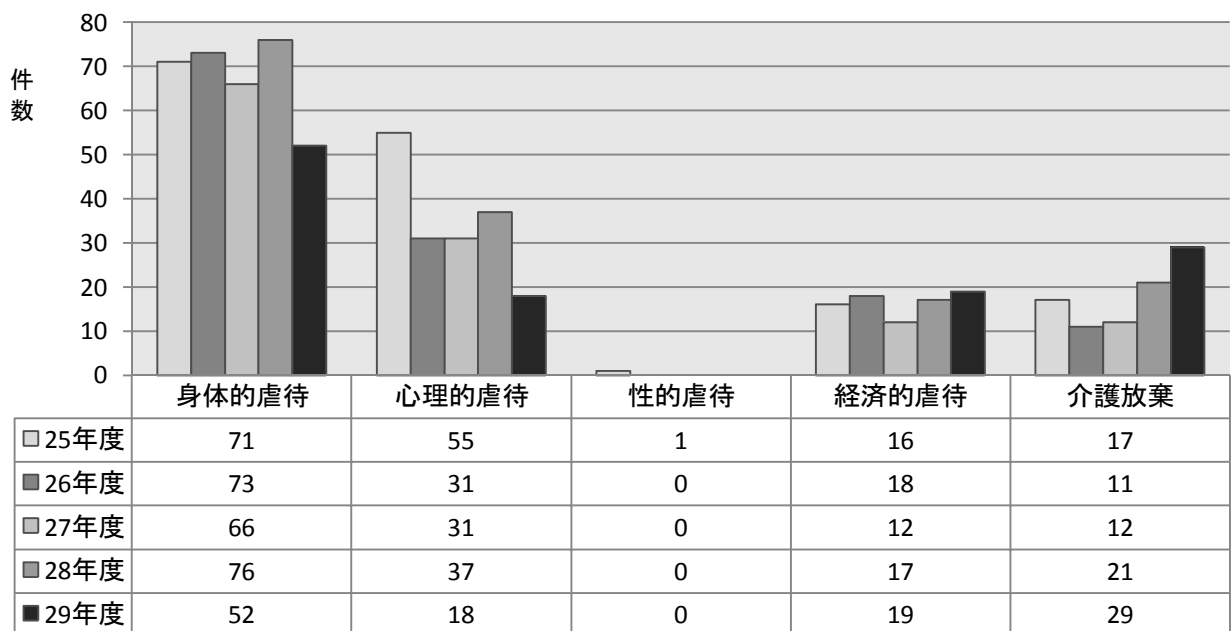
29年度n=204



事実確認を行ったうち、訪問によるものは68.3%
 関係者とは地域包括支援センター、地区担当保健師、生活保護担当、障がい者基幹相談支援センター等
 ※警察の同行件数は再掲

⑤虐待種類の内訳(複数回答)

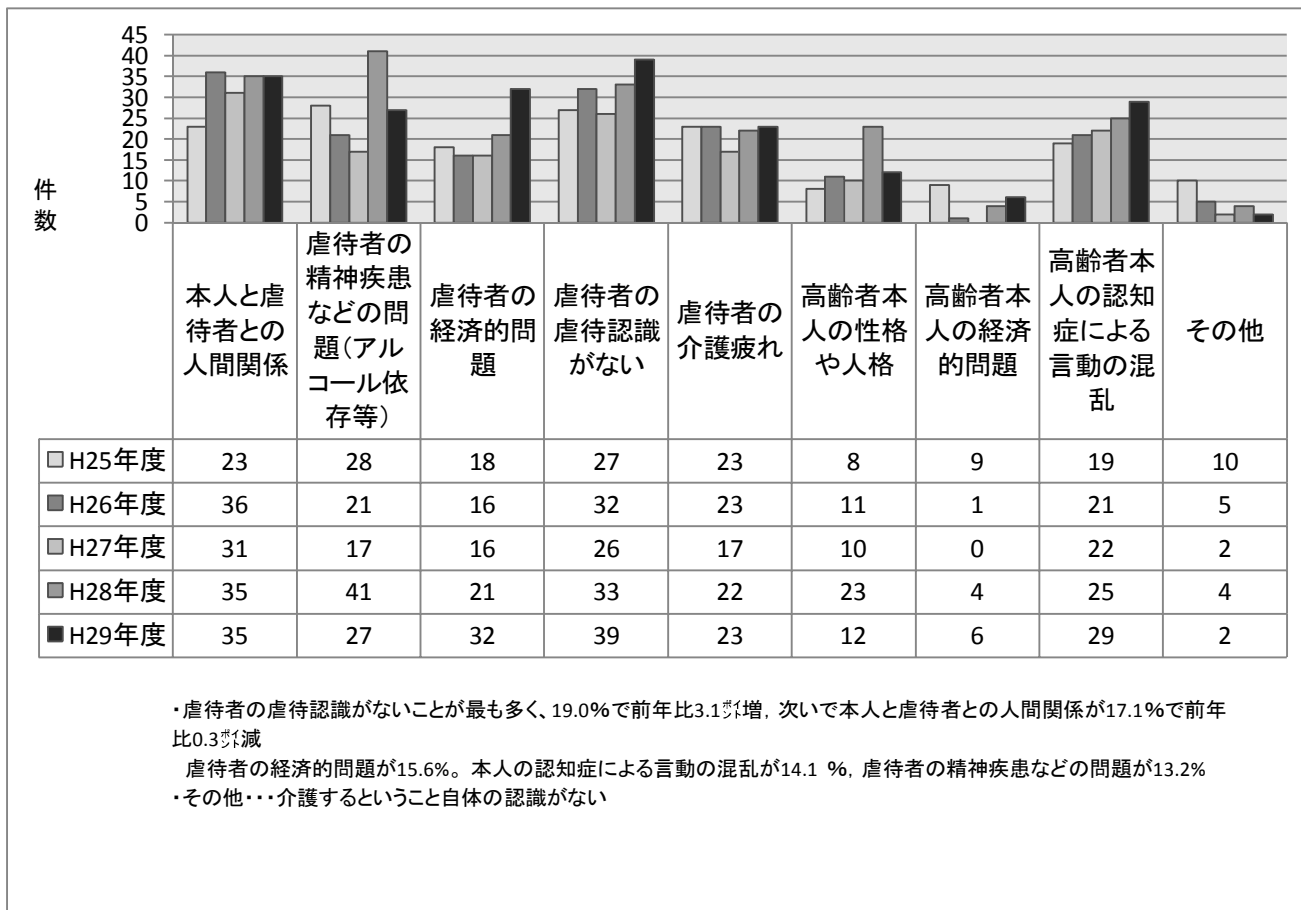
29年度n=118



・多いものから、身体、介護放棄、経済、心理、性的虐待の順番であった。
 ・身体的虐待は44.1%で最も多く、次いで介護放棄が24.6%、経済的虐待が16.1%、心理的虐待が15.3%

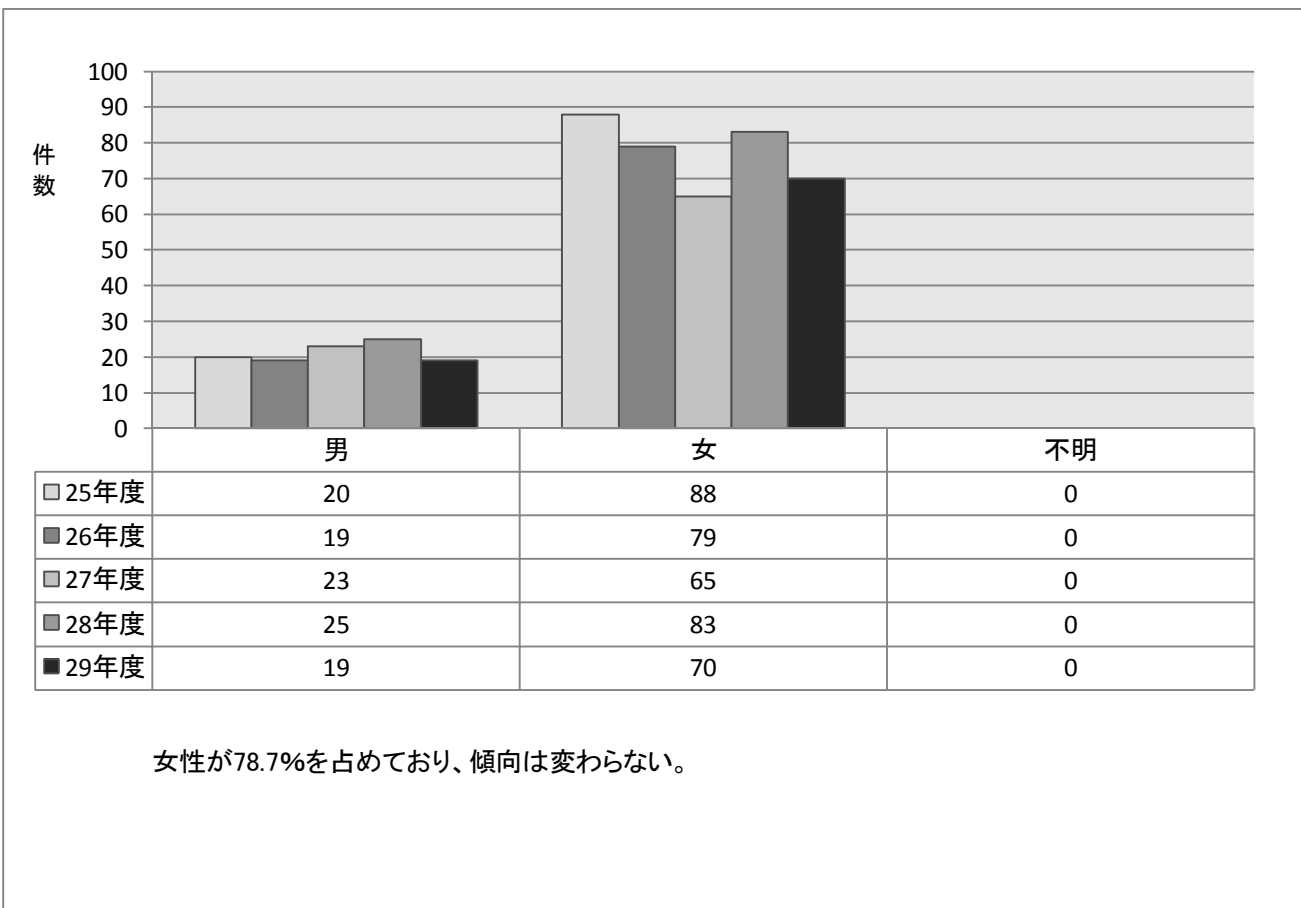
⑥虐待の発生に影響を与えたとされる要因(複数回答)

29年度n=205



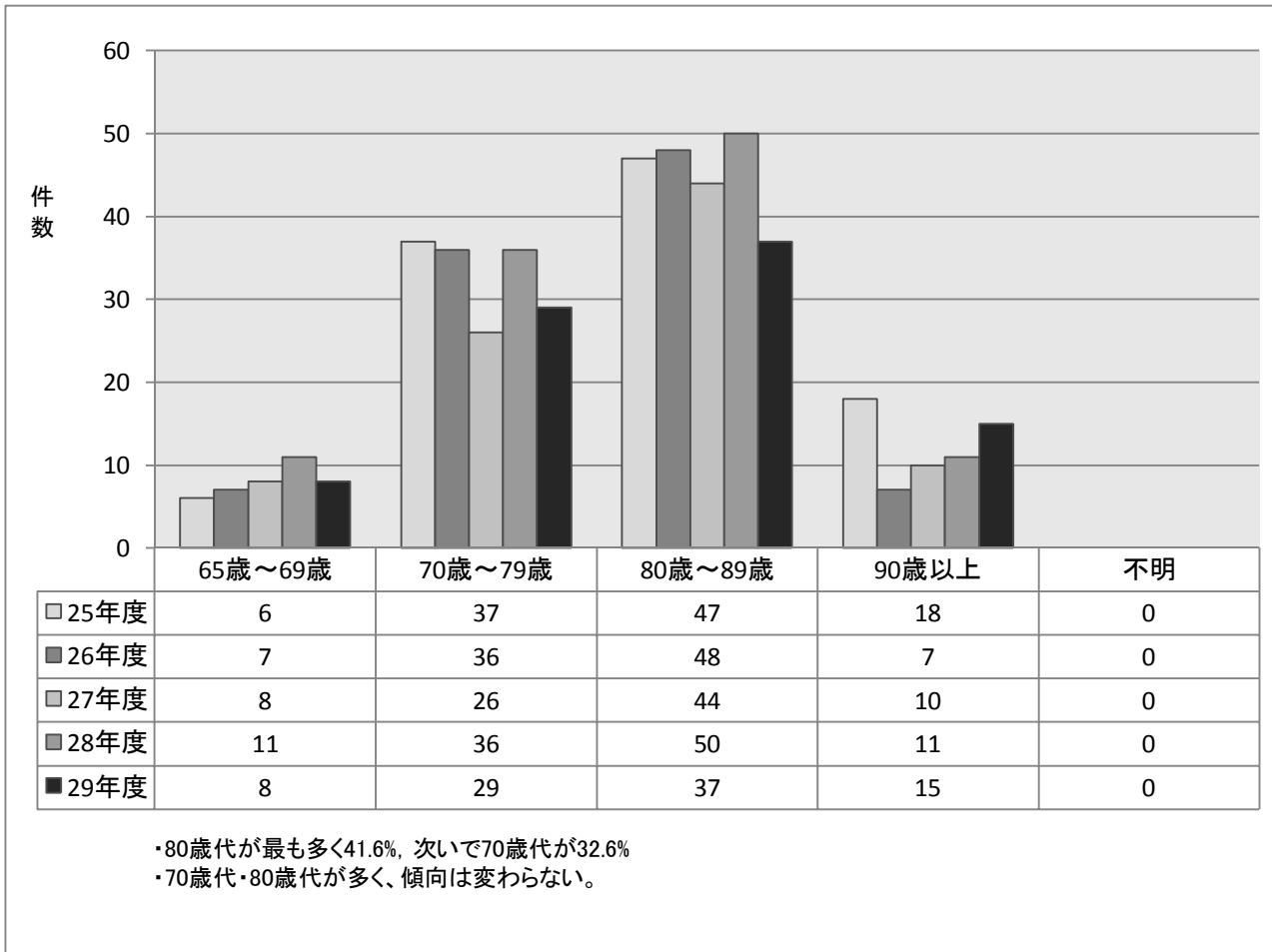
⑦被虐待者の性別(複数の場合はそれぞれでカウント)

29年度n=89



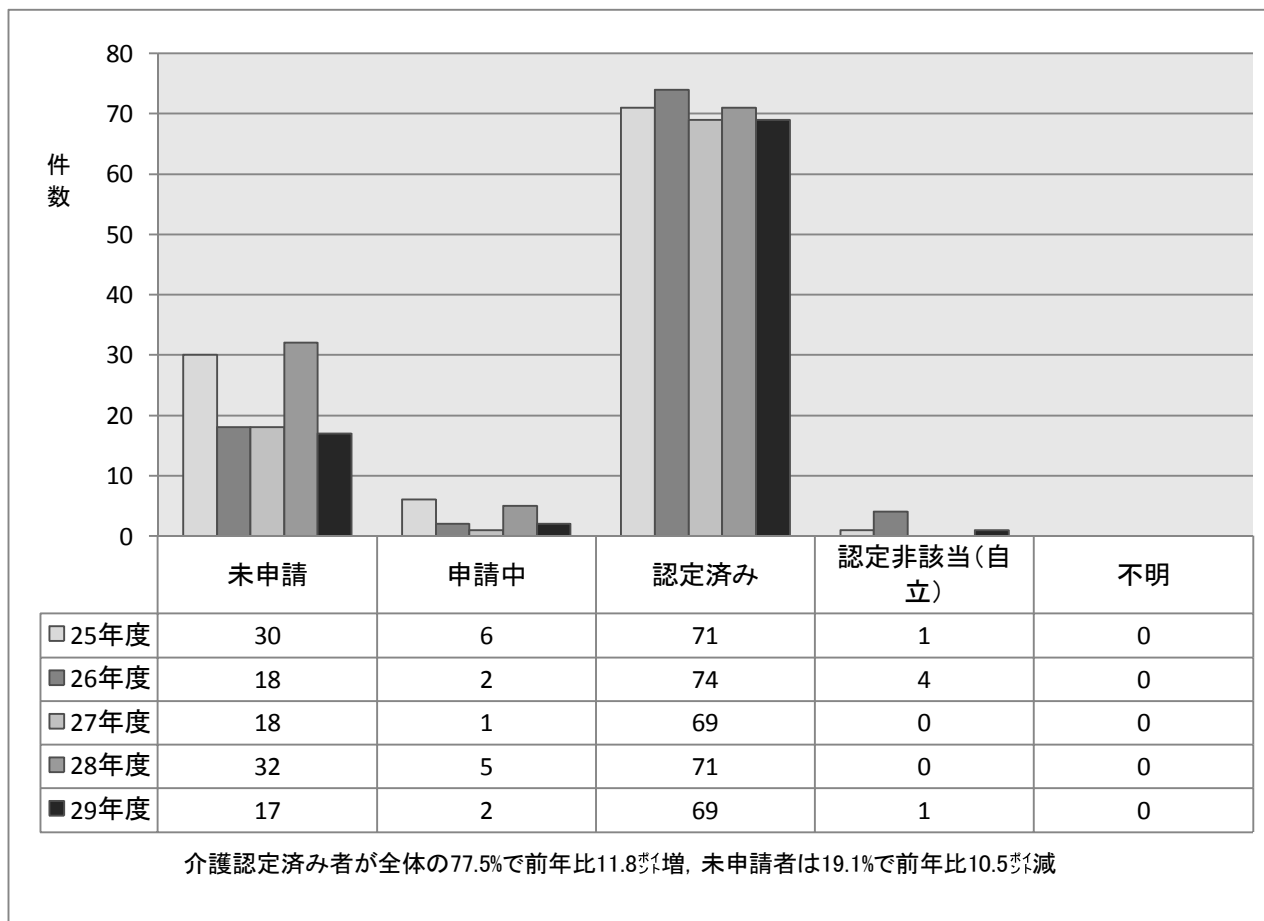
⑧被虐待者の年齢

29年度n=89



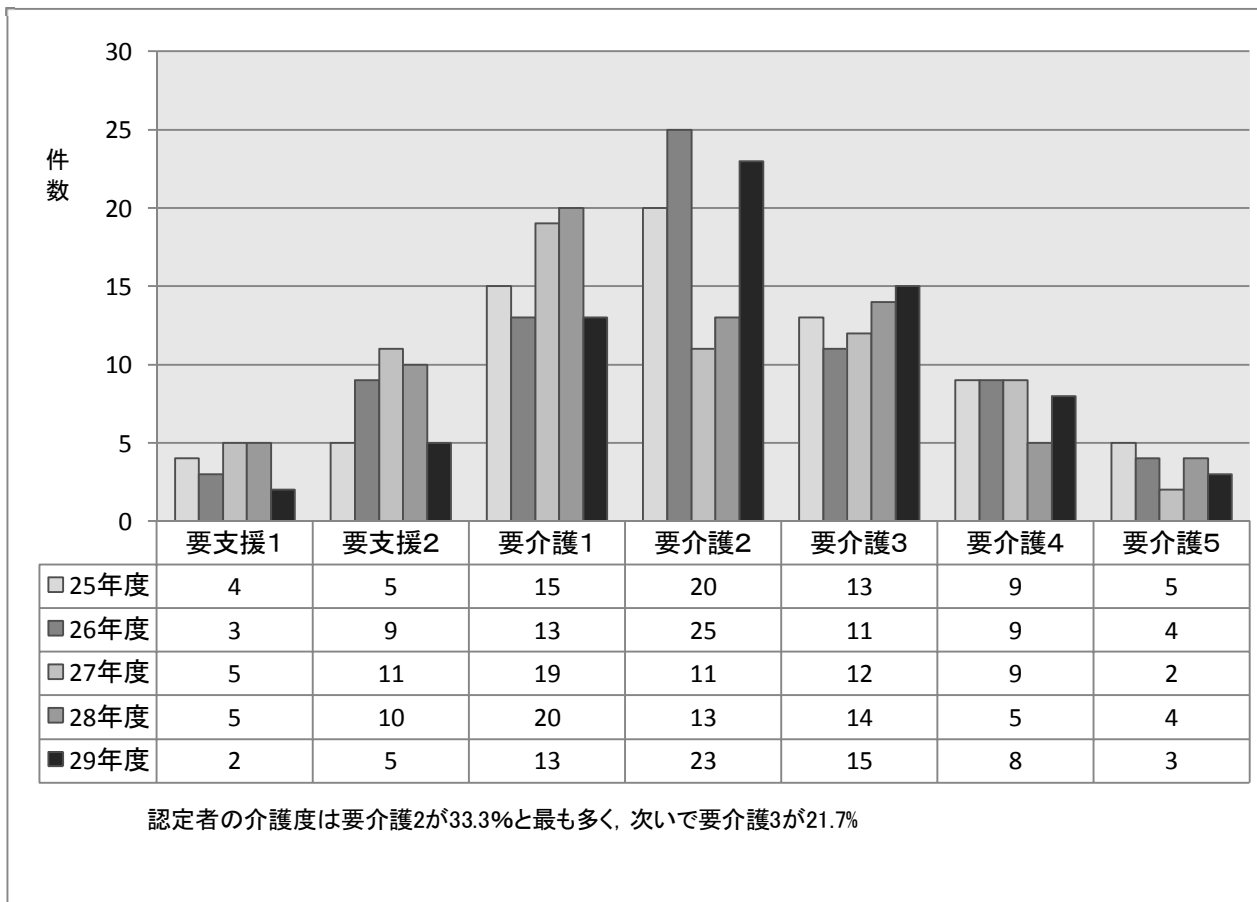
⑨被虐待者の介護認定の有無

29年度n=89



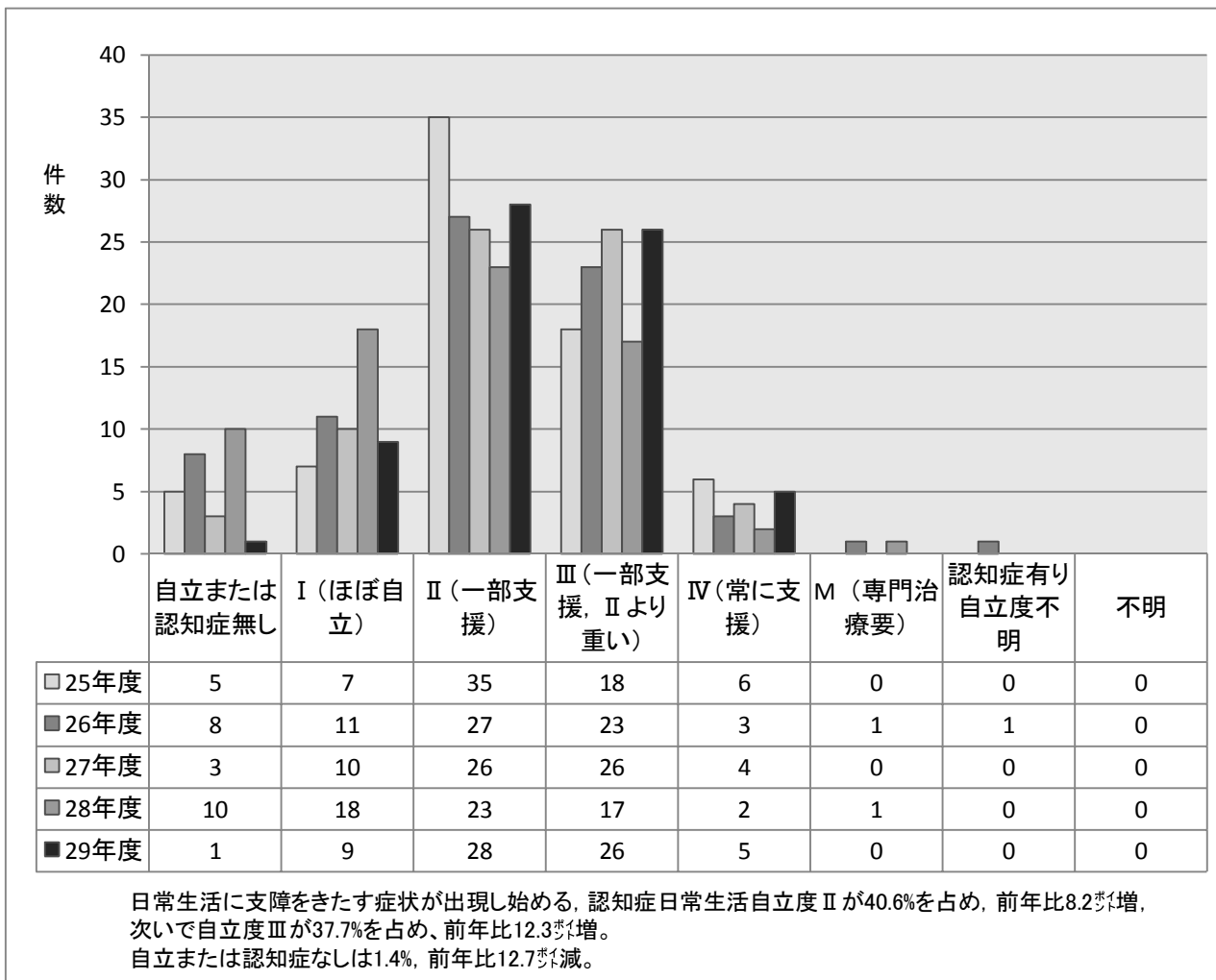
⑩被虐待者の要介護度

29年度n=69



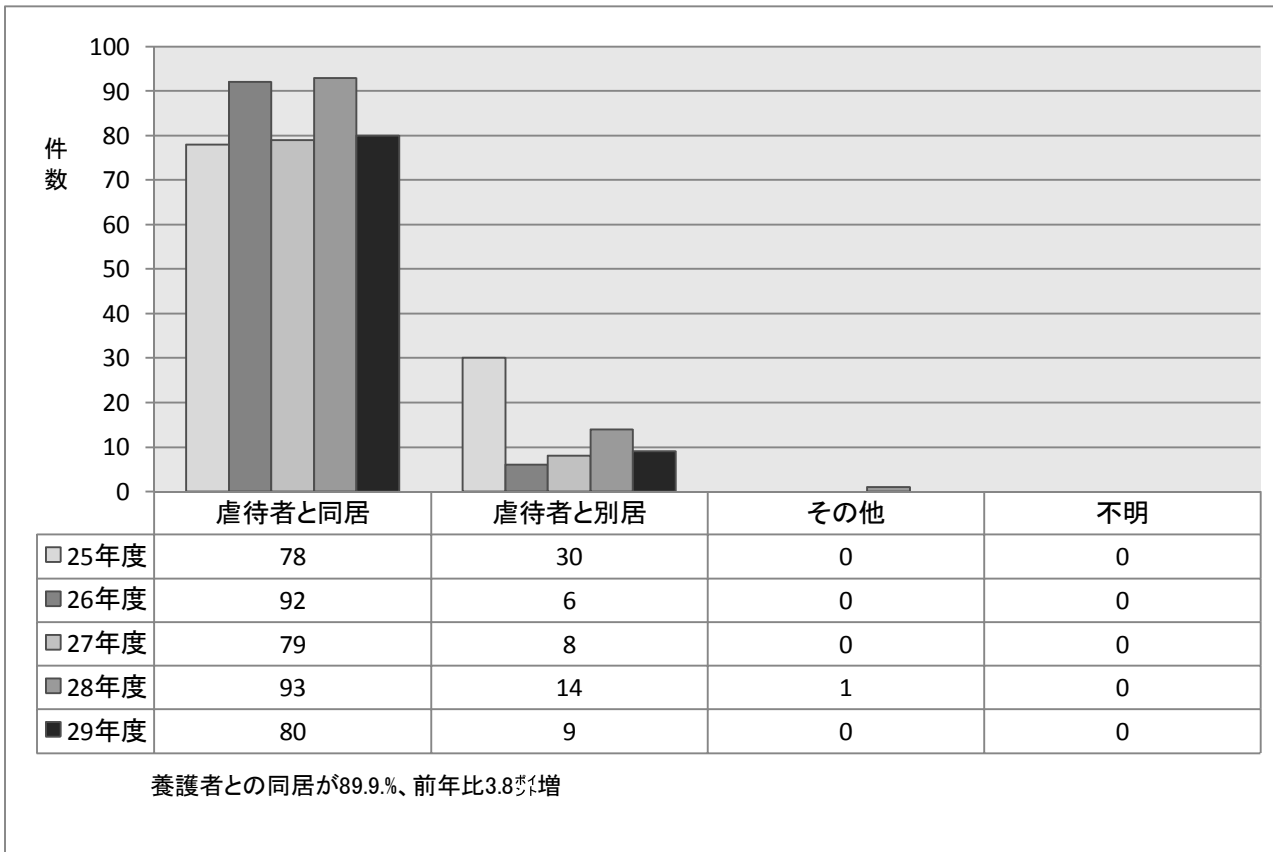
⑪被虐待者の認知症の有無

29年度n=69



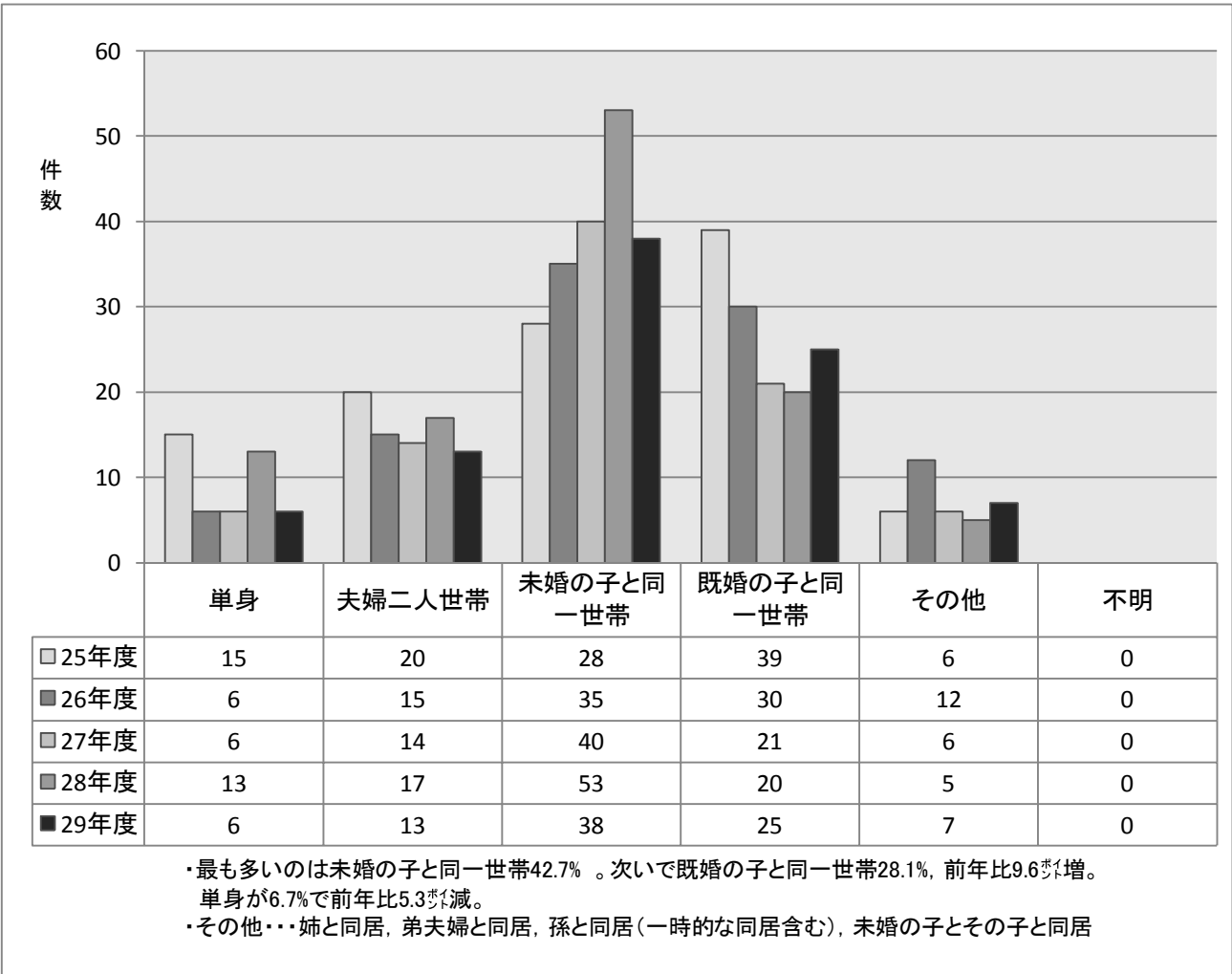
⑫居住形態

29年度n=89



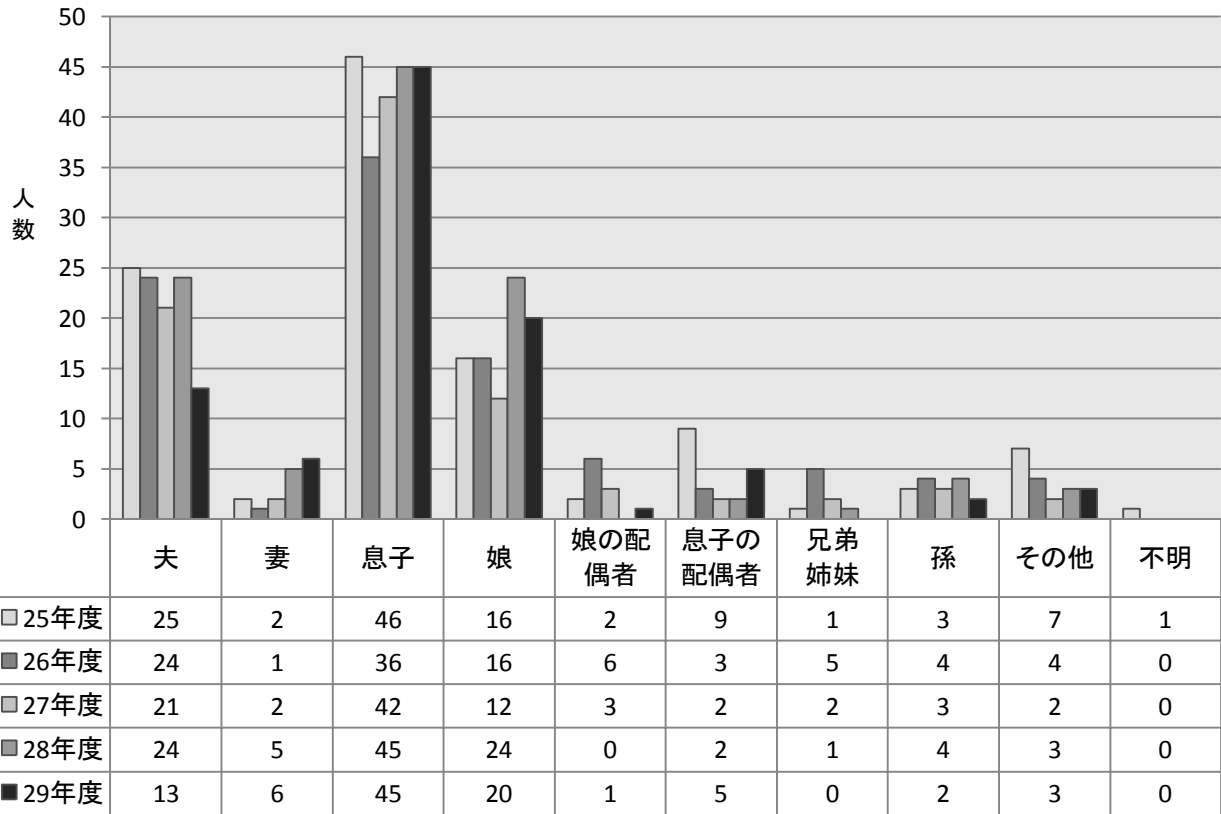
⑬世帯構成

29年度n=89



⑭虐待者の続柄(複数回答)

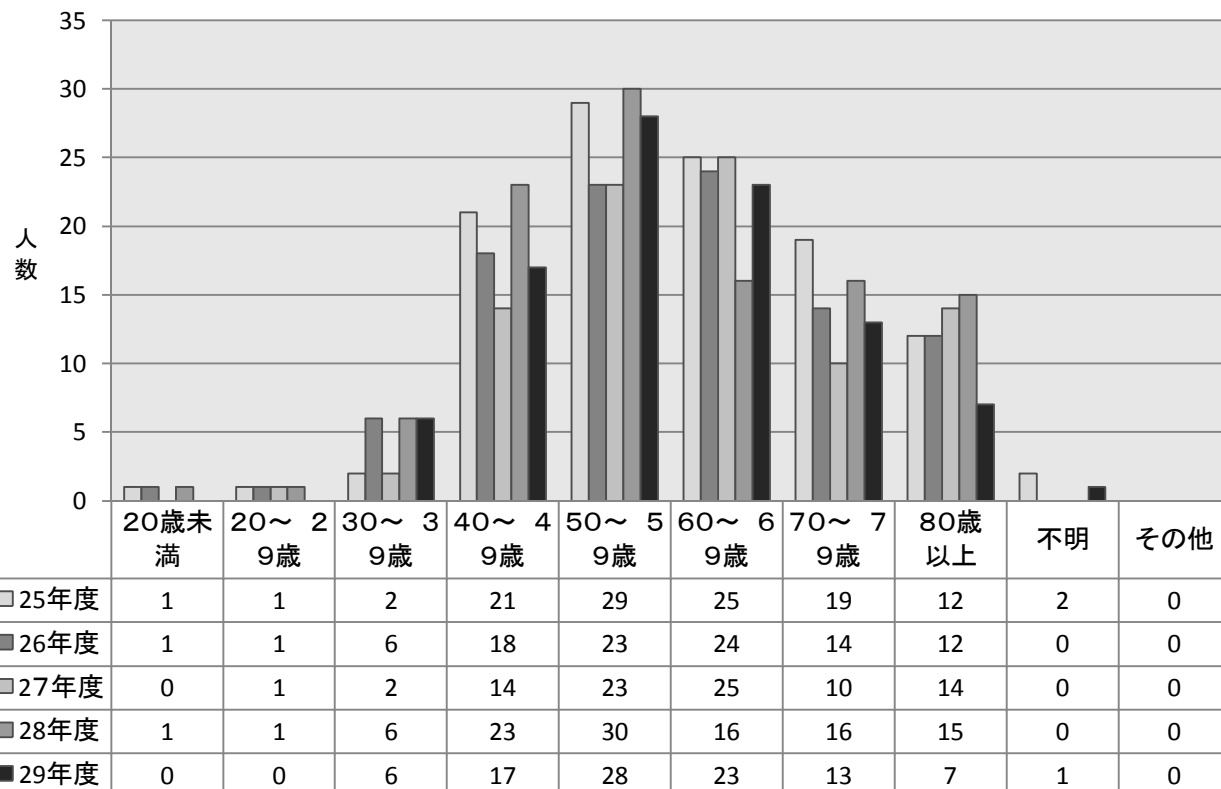
29年度n=95



・息子が最も多く47.4%, 前年比5.7%増, 次いで娘が21.1%, 夫が13.7%。
 ・その他…知人、甥の妻、義妹

⑮虐待者の年齢

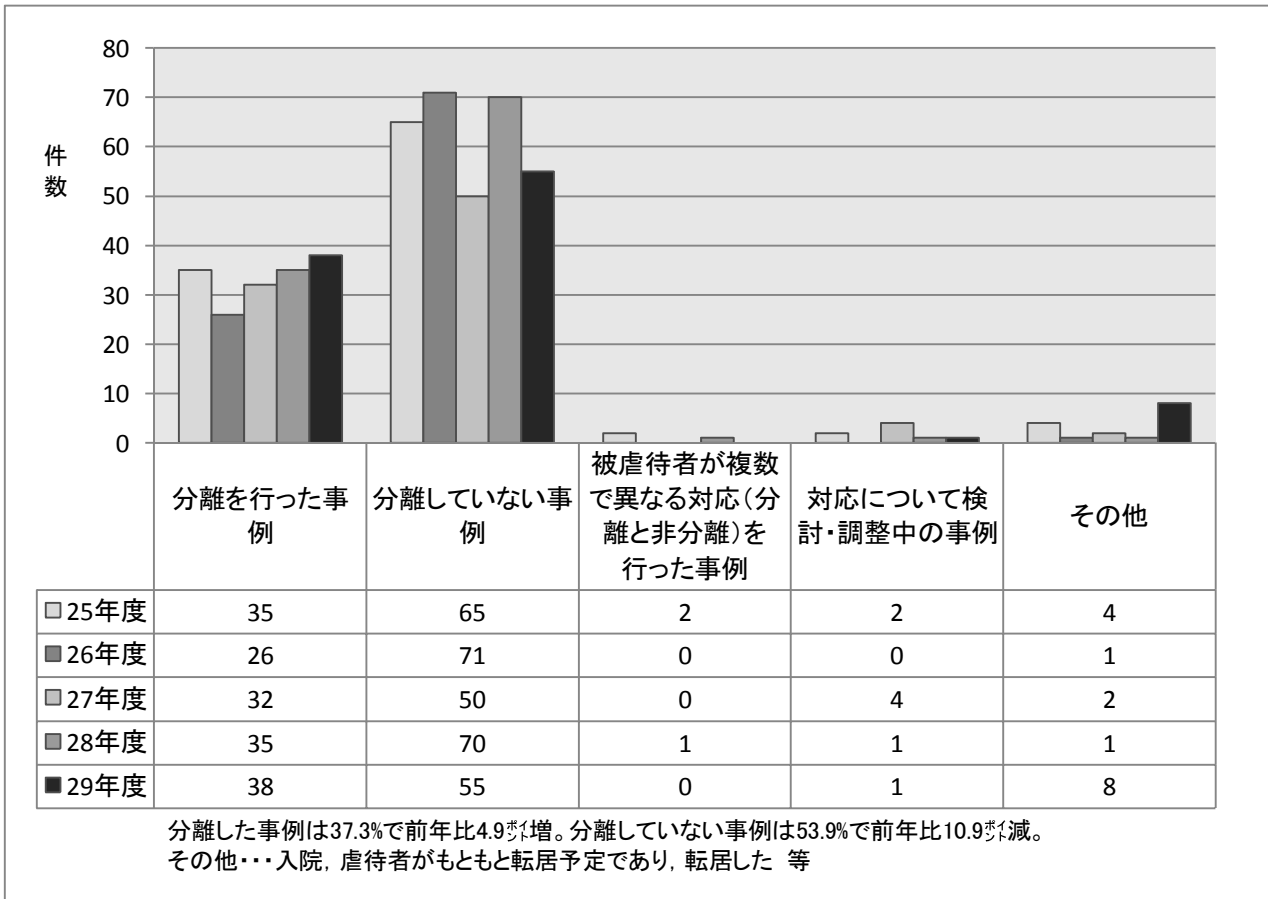
29年度n=95



一番多い年代は50歳代で全体の29.5%前年比1.7%増、次いで60歳代が24.2%前年比9.4%増。
 次いで、40歳代が17.9%。

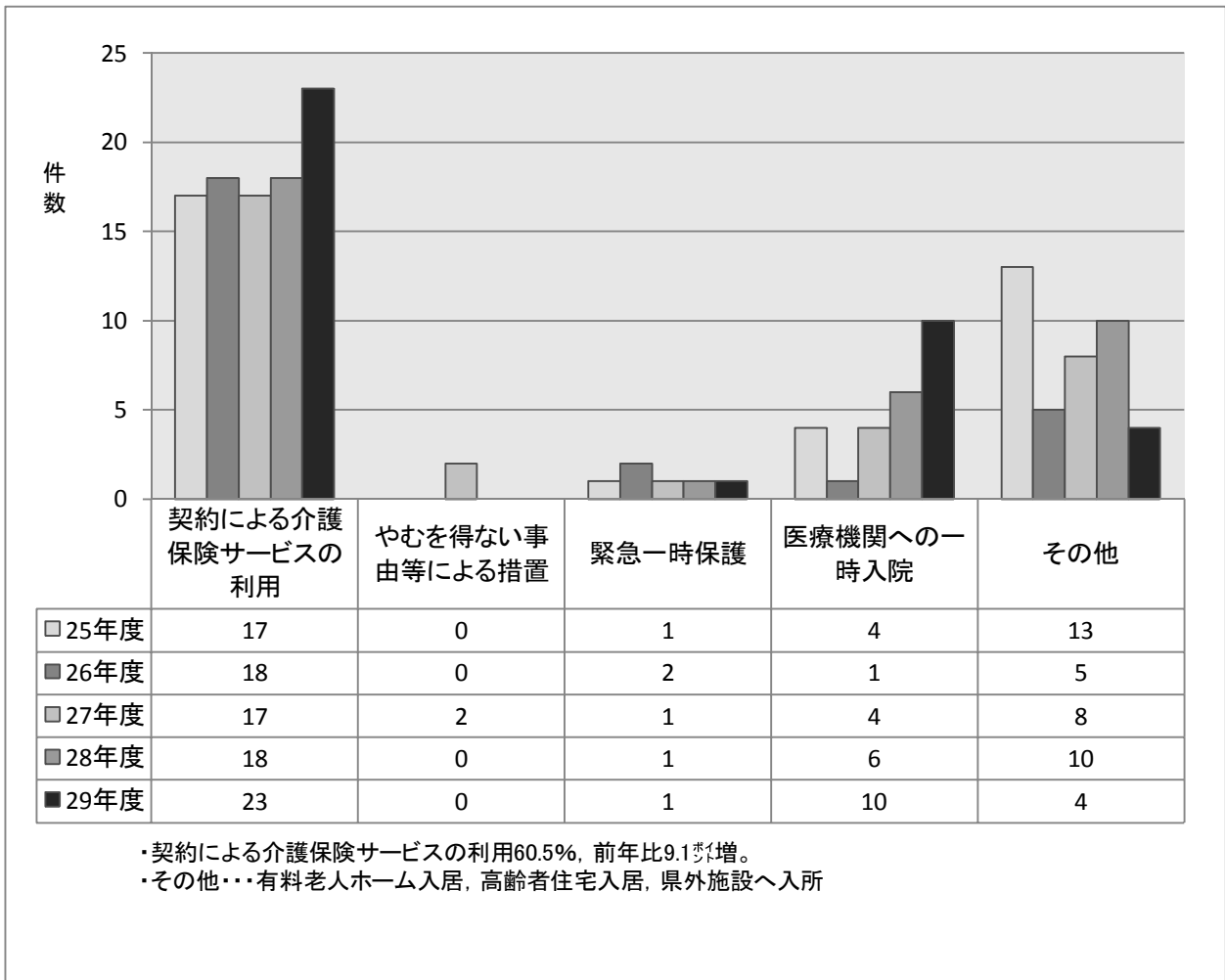
⑩虐待者との分離の有無

29年度n=102



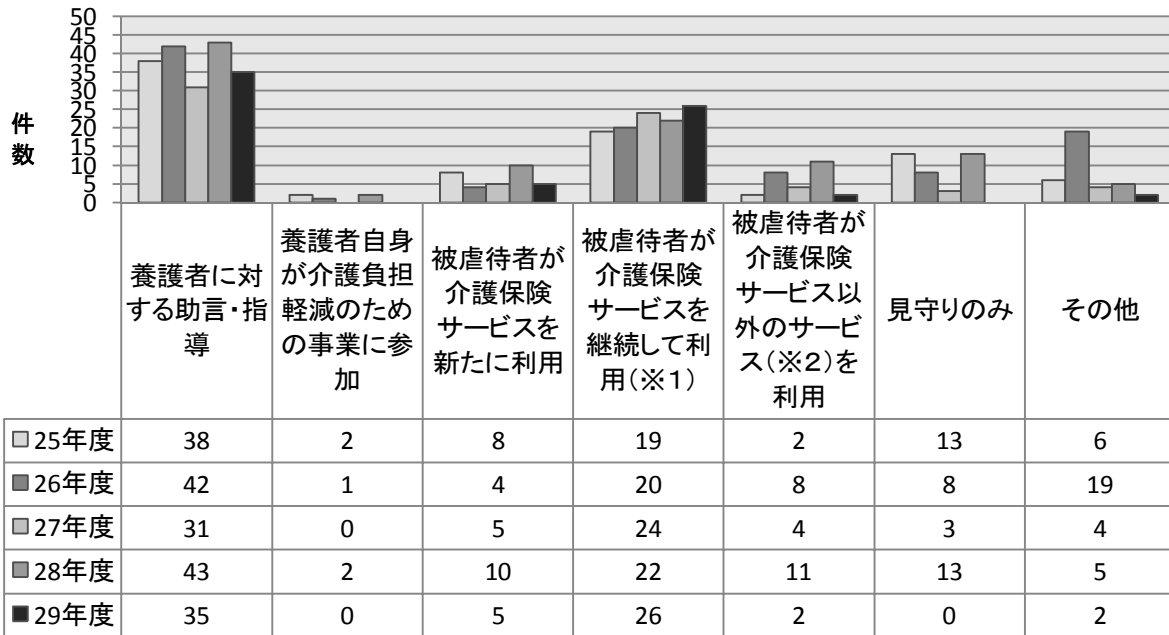
⑪分離を行った事例の対応の内訳

29年度n=38



⑱分離していない事例の対応の内訳(見守りのみを除き複数回答)

29年度n=70



・養護者に対する助言・指導が最も多く50%、前年比94%増、介護保険サービス(新規・継続)を利用した支援が44%、前年比140%増

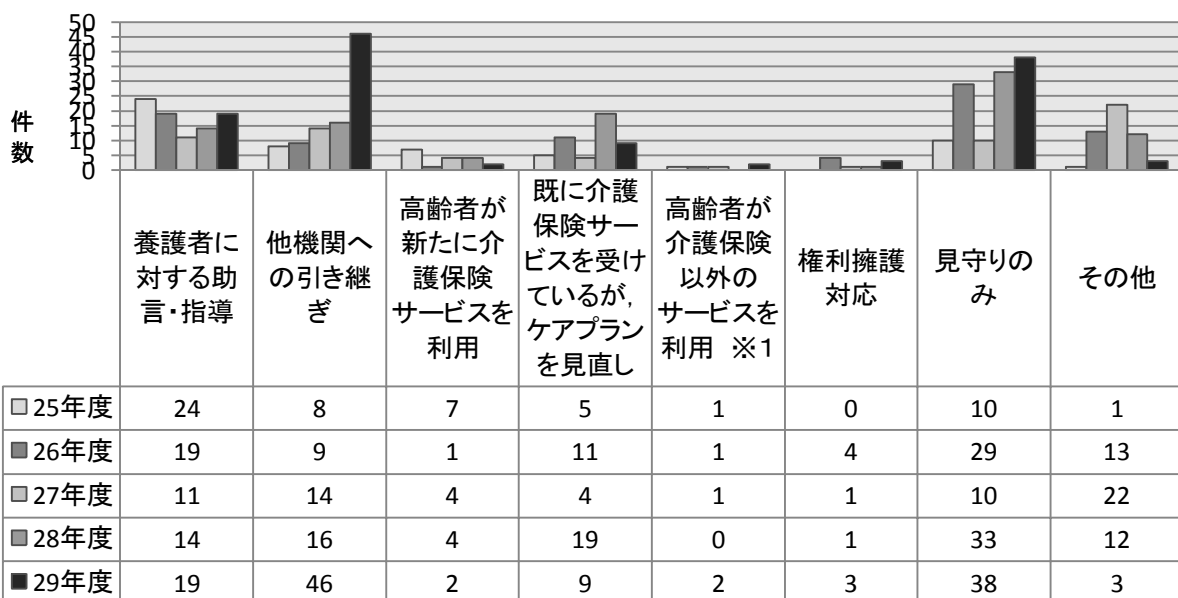
・その他…あんしんサポート利用、虐待者が介護サービスを利用

※1 被虐待者に対するケアプランの見直し ※2 介護保険サービス以外のサービスとは包括民生委員等の見守り、定期訪問等

⑲虐待ではない又は虐待の判断に至らなかった事例の対応の内訳

29年度n=122

(見守りのみを除き複数回答)



・他機関への引き継ぎが最多で37.7%前年比21.5%増、次いで見守りのみが31.1%前年比2.2%減、養護者に対する助言・指導が15.6%前年比1.5%増。

他機関…保健福祉センター(地区担当保健師)、生活保護担当、障がい福祉担当、ケアマネジャー 等

・その他… 養護者が転居、高齢者が転居(養護老人ホーム入所)、受診勧奨

※1 介護保険以外のサービスとは包括、民生委員等の見守り、定期訪問 等

⑳権利擁護に関する対応

29年度n=11

